



fu fu fu 幸せを感じたとき...

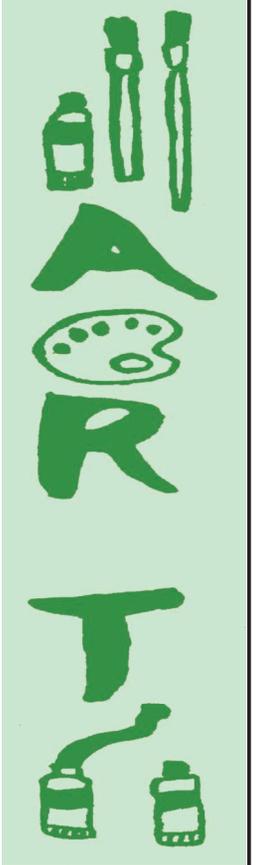
社会福祉法人しがらき会

《法人事務局》信楽青年寮内

TEL0748-82-0588 FAX0748-82-0961

URL <http://www.shigarakikai.or.jp> E-Mail shigaraki@miracle.ocn.ne.jp

信楽青年寮
ワークセンター紫香楽
しがらき地域生活支援センター
障がい者雇用・生活支援センター(甲賀)



福祉のやきものづくりと文化芸術展

1月8日～1月25日 甲賀市信楽伝統産業会館

信楽青年寮は、創設者である故・池田太郎氏の理念の基、半世紀以上にわたり、知的障がいのある人の生活支援と共に「働く」ということに重点をおいて取り組みを行ってきました。利用されている人たちが、地域に出て人として当たり前の暮らしを実現できるように支援を続け、多い時には五十人弱の利用者さんたちが、町内のやきもの関連の事業所を中心に働いておられた歴史があります。また、障がいのある人たちは雇用する職場(事業所)組織として、「信楽町職親会」の創設に繋がりに今に至っています。現在、信楽青年寮を利用して働いている人たちは既に歳を重ねられ、地域の事業所で働いておられる人はいなくなりましたが、その



信楽青年寮のもう一つの特徴は、日中活動にあります。地域で就労されていない人も寮内の作業場で一生懸命に働いてくれました。その中でも、アート活動を盛んに取り入れ作品と呼ばれ、障がいのある人でも一人のアーティストとしての地位を確立されている時代ですが、以前は世の中の風潮として認知されない厳しい時代もありました。そのような時から、利用者の皆さんの個性や感性を表現した作品を展覧会という場で啓発を続けています。今回、甲賀市、信楽伝統産業会館さんからお話をいただき、信楽町を中心とした福祉施設(事業所)を利用されている人たちの作品や取り組みを紹介し、「福祉のまちしがらき」と称される由来に関するテーマとした展覧会を開催することができました。コロナ禍ではありましたが、たくさんのご来場をいただきありがとうございました。

(石野 記)

信楽青年寮展

一人ひとりの表現

11月27日～12月8日 GALLERY 陶園

一昨年より、新型コロナウイルスが流行し、展覧会の機会が減り利用者さんや職員も大変残念に思っています。しかし今年度は、昨年よりも展覧会の機会が少しずつ増えてきています。そんな中、今年も GALLERY 陶園さんのご協力により、展覧会を開催させていただくことが出来ました。



近年では、美術教育を受けていない人たちの作品を「アールブリュット」や「アウトサイダーアート」などと言われています。私たち信楽青年寮では、そんな言葉がない時代から寮で暮らす人たちの余暇支援のひとつとして粘土や絵画などの作品を制作してきました。展覧会は、作品発表の場とするだけではなく、信楽青年寮で活動されている人たちの貴重な社会参加の機会のひとつとなりました。今ではこうした活動も作業種目のひとつとなっています。作品は同じ信楽の粘土を使っても、同じ画用紙に絵を描いても人それぞれ感性が加われば作者の表現となって表れます。難しいことは考えず、無我夢中で作った作品には作者それぞれの魂が込められています。そんな利用者さんたちの「表現」をテーマに今回は作品発表させていただきます。

その年によって開催時期は違いますが、毎年一回、陶園さんで開催をさせていただいていきます。既に催しは終わっておりますが、次回の開催には是非ともご覧いただけます。ありがとうございました。(田中悠 記)

信楽青年寮 だより

平素は、信楽青年寮の諸活動に対しご理解と協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今回のだよりは、特に町内の子どもさんに読んでいただきたいと思っております。

みかさん、信楽青年寮ってどんなところか知っていますか? わからなければ、周りの大人の方や学校の先生に聞いてください。信楽青年寮の事について話し合いをしていただくと嬉しいですよ。上記にある展覧会の内容を読まれると少しわかっていただけるかもしれません。

Q&Aではほんの少しお伝えします。

Q1: どのよう施設なのですか?

A1: 知的障がいのある、大人の方が生活をされている施設です。

Q2: 何名おられるのですか?

A2: 六十八名おられます。

Q3: 職員さんは何名おられるのですか? また、どのような仕事をされているのですか?

A3: 六十八名います。生活全般を支える支援員と支援を確保する責任者、体調の管理をしている看護師、栄養管理と献立を作成している栄養士、飯を作ってくれる調理師、掃除をしてくれる清掃員、車の運転をしてくれる運転手、お金の計算や各種手続きをしてくれる事務員。そして寮全体を管理する施設長がいます。ここにいらっしゃる皆さんが安心して過ごされるように、全員で考えて仕事をしています。

イメージがわきましたか? この二年間、コロナ感染対策で、地域の皆さんとお会いする機会が減ってしまいました。ワークショップの開催や、夏には寮の盆踊り会や皆さんに来ていただき、お会いできることが待ち遠しいです。今後ともよろしくお願ひします。(岩永 記)

スタッフ募集 (正規 契約 パート)

しがらき会では職員を募集しております。

障がいのある人を支える仕事に興味がある方は、下記までご連絡をお願いします。

お待ちしております。

詳しくは QR コードを読み取って下さい !!

募集職種 : 支援員・ヘルパー・調理員・看護師
世話人・就業支援ワーカー

連絡先 : しがらき会法人事務局
0748-82-0588

担当 : 中井・岩永



ワークセンター紫香楽より

こんにちは

『紫香楽和紙が百貨店に初出店』

ワークセンター紫香楽の和紙商品を近鉄百貨店草津にて、年末年始の十二月二十六日から一月四日まで販売させて頂きました。

九日間和紙商品が百貨店に並び、いろんな方々に触れて頂きました。幅広い年齢層の方々に興味をもってもらえたと感じています。「可愛い」「かっこいい」という声をたくさん頂きました。利用者さんのやる気に繋がりたい。働くことに繋がりたい。利用者さんにこの声を届けたいと思えました。

和紙作りでは、利用者さんの得意なことを見つけ和紙を漉く人、絵を描く人、和紙を折る人など。作業工程を細かくして一つの商品を作っています。ひとり一人の大切な仕事を重ねて、一つの商品が生まれてきます。ワークセンター紫香楽にも高齢化が進んでいるからこそ、出来ることを分けて、力を合わせて作った商品が更に良い物となる「進化する和紙」が完成しています。

その進化していく和紙商品を、もっとたくさんの方々に見てもらいたい、売り方や魅せ方の勉強にもなりました。この期間中でディスプレイを何度も変更し、商品が目に残るよう手に取ってもらえるように挑戦しました。今後も、ワークセンター紫香楽の職人さんたち、作家さんたちが作った進化する和紙を色々な方々に触れてもらいたいと思います。信楽の神山にありますワークセンター紫香楽の二階にもギャラリーがあり、他にも商品が多数ありますので、ぜひお立ち寄り下さい。また、紙漉き体験もできます。和紙の名刺もお作りしていますのでお問い合わせ下さい。心よりお待ちしております。

(桑原 記)



しがらき地域生活支援センター

だより

しがらき地域生活支援センターホーム事業部では、ホームの利用者さんが楽しめるようなイベントを企画しています。現在は、新型コロナウィルス感染症の影響で規模や回数を調整しながら実施しています。

今回は、年が明けた令和四年一月三日に上野天神宮へ初詣に行った企画を紹介します。毎年恒例となっている行事の一つです。参加者の皆さんは、新年のあいさつやお祈り事など、それぞれ想いを込めて参拝され、お守りやおみくじを引いたりして初詣を満喫されました。

初詣の後、以前であれば外食を楽しんでいましたが今回は断念し、伊賀上野城へ行きました。信楽からはそうは遠くない場所ではありますが、なかなか行く機会もなく、初めての方も多くおられました。「お城」ということもあり坂や舗装されていない道も多く、なれない道に苦戦されていました。いざお城が見えてくると奇麗な外観と大きさに「おー！」と歓声があがりました。そのあとはお城を背景に記念撮影や、散策、お土産タイム突入です。小さいお店でしたが、忍者饅頭やかたやき、お城マグネットなどがあり、ホームに職場にと悩みながら購入されていました。帰りに伊賀のパンプレットをもらい、「こんなお店もあるんやあ、行ってみたいなあ」など話され、いつかまた皆さんと行ければと思います。



(谷川 記)

障がい者雇用・生活支援センター

(甲賀) だより

甲賀地域働き・暮らし応援センターは、障がいのある人の「働く」こと「暮らす」ことを一体的にサポートするセンターです。障がいのある人の就労ニーズと企業の雇用ニーズを結びつける取り組みを進めるとともに、実習の実地、職場の定着、就労に伴う生活のサポート等を関係機関と連携して実施しています。

今回は、甲賀・湖南圏域の障がい雇用状況についてご紹介させて頂きます。令和三年三月一日から民間企業の法定雇用率が2.2%から2.3%に引き上げとなりました。従業員45.5人以上から43.3人以上に1人の雇用に変わりました。コロナの影響もあり、甲賀・湖南圏域では求人等にすぐに繋がって増えている実感はなかったのですが、ここ最近、新規に障がい者雇用と検討していると企業さんからの相談が多くなっています。障がい者雇用を進めていくには、合理的配慮といった、それぞれの障害特徴や困りごとに合わせておこなわれる配慮が必要になってきます。取り組みのポイントとしては、○採用時に本人から、配慮を求める意思表示をうける。○採用後、企業から本人に対し、働く上での職場で支障となっている事柄・事情を確認する。○見直し・改善、どんな配慮をするか、本人と企業と合意した上で実施(できること、できないことを説明)。○配慮の実施後も定期的に見直しや改善をすることが大切になります。会社の担当者だけでは不安な場合や本人の意思表示が苦手な方は、当センターのワーカーと一緒に話し合いに入りながらどこまで配慮できるのか考えさせて頂くこともあります。



滋賀県内にある民間企業で雇用されている障害者の数は3373.5人で前年度より121.5人増(前年比3.7%増)し十二年連続で最高となっています。障がい者雇用には、活用できる制度や助成金等などもたくさんあります。障がい者雇用をご検討されている際には、当センターまでお問合せください。

(杉本 記)

甲賀地域働き・暮らし応援センター

0748(63)5830

職員コラム

私はパンが好きです。とはいえ、毎日パンを食べたいほどではありません。ですが、パン屋に入った時の香りは、たまらなく好きでとても幸せな気持ちになります。つい魔法にかけられたように食べきれない数のパンを買ってしまいます。私にとって、パンはたまにしか食べないご褒美なのかもしれません。小さい頃は好きでも嫌いでもなかったのですが、大人になり、近くにパン屋が増えたことで、知り合いから美味しいパン屋を教えてください。今日は先週周辺のパン屋をグーグルマップで調べたりと、自分好みのパン屋を探ることが楽しみになりました。つい先日、地元のあるパン屋に初めて行きました。自家製酵母を使ったパン屋で、無添加・一つ一つの食材・丁寧なおいしい食べ方の説明、凄くこだわりを感じられました。翌日に食べたのですが、優しい味で、心落ち着くパンは初めての感覚でした。素敵なパン屋に出会えました。また、ご褒美に買いに行こうと思います。(K・E)

ダブルクリック(私の視点)

私が仕事で大切にしている部分は二つあります。一つ目は利用者さんに笑顔で明るく接する事を忘れない様に心がけています。私が暗い雰囲気していると、利用者さんに伝わり気持ち沈んでしまったり話す事も消極的になってしまふ様に感じます。職員が笑顔していると利用者さんから話しかけて下さり、自然と会話も弾む事が多いです。また、会話をする時は目線の高さを合わせたり優しく丁寧な言葉がけを行う様にしています。このような小さな積み重ねが信頼関係を築くと思っております。二つ目は利用者さんの想いを大切にすることです。自分の気持ちを伝えられる方ばかりでなく中には意思疎通が難しい方もおられるので、何気ない行動や言葉の裏にはどんな想いがあるのかと日々利用者さんの立場になり考えながら、関わりを大切にしています。自分の対応が本当に利用者さんの想いに寄り添えているか常に自問自答しながら働いてますが、今後も上記の事を大切にしていきたいように利用者さんに安心して生活して頂ける様に進んでいきたいです。(S・N)